



2230

繪

作
學
安
心
物
譜
三

小夜嵐卷第三

才十一 曉月坊事

才十二 我笑相見

才十三 佛と悪下女の事

才十四 獄中人赦の御觸

才十五 罪人地獄出

小夜嵐卷第三

才十一 曉月坊事

人頭あたま飛と胸むね赤あか白しろの體たい二にのあひて罪人

とををあてあて不ふ作さのの罪と科か冥みやう途とああくくいい高たか府ふののああははれ

かかままとと胸むねととわわててららるるががぶぶくくつつああよよららててるる

同どうくくままるるををららかかりりののいいよよららくく同どう魔ま城じやうの中なかににたたち

憧あこがれれ備びつつてて獄ごく中ちゆうにに威いととああららうう事ことななららびびああららぬぬ南なん無む

奥おく福ふく寺じのの曉あけ月つき坊ぼくとと云い者ものけけたた右みぎのの禪ぜんととすすとと

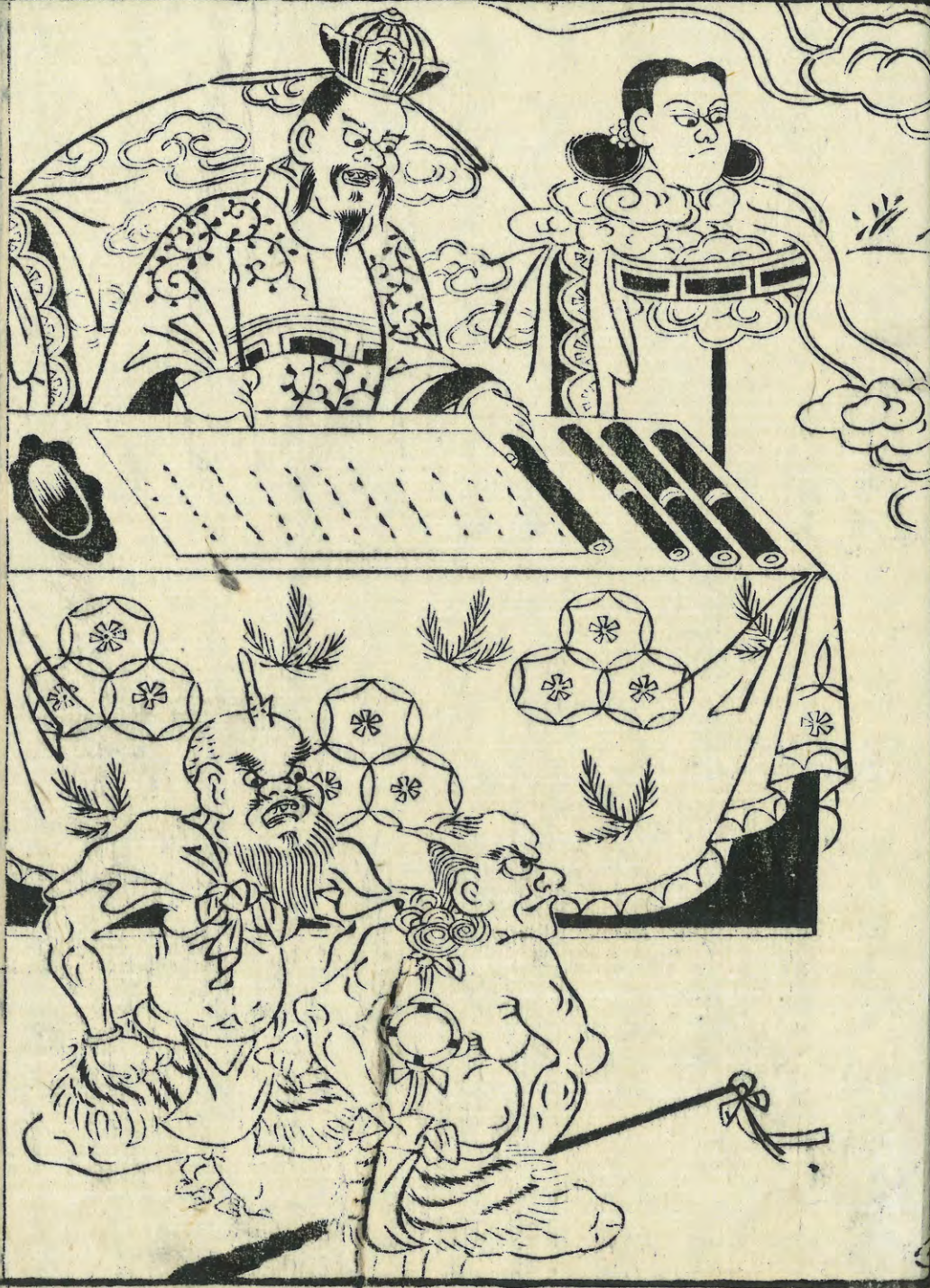
人ひとるるれれ邪よこしま心こころ成なりるる目め鼻びとと

たたよよああららううハハ天てん下か一いつのの

ししららししそそををああららるる罪つみ人ひとのの身みへへここややここ入いれれがが早はや

そして... 何系曉月坊... 三世の信佛十方乃... 飲食... 暁月坊... 親也

それ... 暁月坊... 親也... 暁月坊... 親也... 暁月坊... 親也



伏松のこゝに思ひに寄ていそこりら猿あゝや
さしこつぐとて去つともみはしをたかぞでに飛と
つものかじんりつしとされよそめおきて公家ま家いご
かひ馬鞍あゝ名酒とりを珍肴と相しのかと云
こ何御意の飲に木の冷くしてあごあし尸と云
もあゝくハ愁歎とくハ木ようんこんものちなうもま
月心つめあよとていぬと飼養つハ人けう病とた
とけは飼のいぬつとびりあゝせせぬ救まの一掃と
文をち雲門の内を賤が物せわの門遠かむわ
うけがらうちらうとて人にとぞしる里乃人奴と
とゆごこよかたたざれとわいあゝと東門院の

女ごうしとされ式部と尸ハ裁前ハ前司あちとたじと
め十七とみあゝに列石山寺にこりしけんと物所と
可作し大狼若経とらとくハ六十指を片時がたど
よと云うしとらつとてよつこつとらと十とてとれ中
いとうとくハ文のいじとぬうきみれまらふと富所
馬とてすしとらとくハとらあまらあよ雲のころとて
乃出とてあつとらとていとかそりつとてかまうし
唐乃あまひと唐太もりて美人のさうとせあひん
つらとよ入人十人の飼とそつとれがわのけかてつは
けんふとてせ怖のう人よ起すたなうとハ異歎とら
よとてとらとていけいけとめとめとてとれとれ

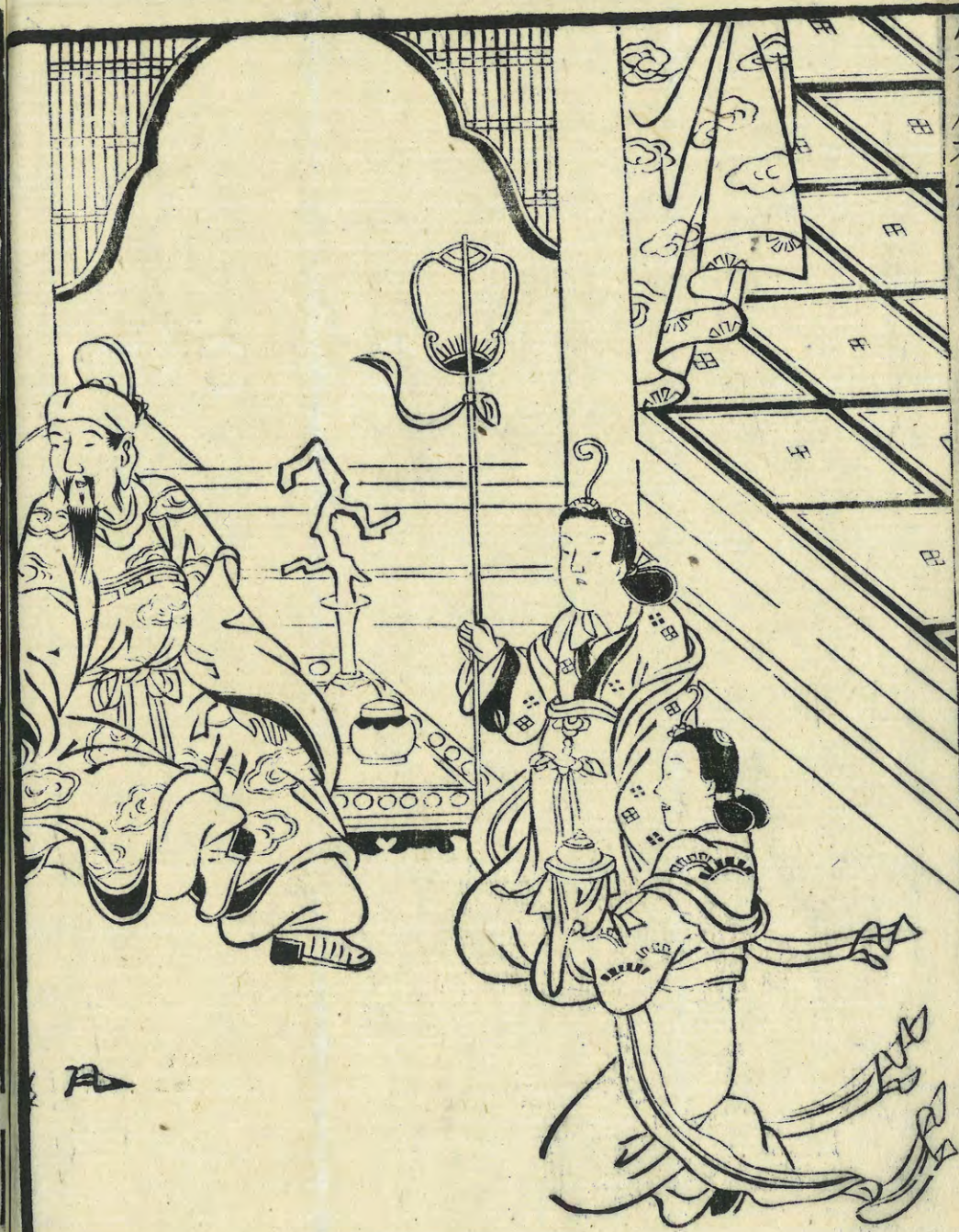
小史風卷之三

いしうらんりうしうとつらとつらあけアきれと鬼神
よわうがうたうしやせんあくとふなふとあてんた
りいとしとア黒^{くろ}方^{かた}へりぞくふ。曉月^{あきづき}坊^{ぼく}のりそ
あまののちらせりくもめとていづれとてたおよみ
て居ありしうわふ友^{とも}向^{むか}ひけりしゆりあてりあ
といふうと拵^{しやう}合^{あひ}とらり思^し惟^ひしてまへ。まこととて
かれハ^ハ馬^ま遊^{あそ}ぶとてまありしゆり中^{ちゆう}あて人の
思^し香^{かう}いさうとわかれと物^{もの}くはしむとまど。ま
これ禱^{たう}の根^ねなりとてお^おつ^つあ^あのいふとてい人の
眼^{まなこ}ハ天^{あま}よりけりし身^みハ雲^{くも}よけりしひそりあて^あて^てせ
まししうりあて^あて^てとてい人のいづれは^はいづれは^は

あんまえさのたからと天台^{たいたい}聖^{せい}主^{しゆ}慈^じ鎮^{ちん}和^わ高^{かう}れ秋^{あき}よ
せれ中^{ちゆう}の人のいづれは^はいづれは^は

元^{もと}は^はれと^とは^は明^{めい}の月^{げつ}

昔^{むかし}人のやうに^にも^も人^{ひと}のつらとていづれは^はいづれは^は
けしうとてあまのりまのりまのりまのりまのりまのり
唯^{ただ}そのあつとていづれは^はいづれは^はいづれは^はいづれは^は
情^{なさけ}草^{くさ}本^{もと}は^は振^{ふる}舞^まとていづれは^はいづれは^はいづれは^は
よ^よ皆^{みな}花^{はな}開^{ひら}夏^{なつ}いづれは^はいづれは^はいづれは^はいづれは^は
時^{とき}さとりとていづれは^はいづれは^はいづれは^はいづれは^は
かりあつとていづれは^はいづれは^はいづれは^はいづれは^は
供^{くわ}御^ごよハ^ハ備^びとていづれは^はいづれは^はいづれは^はいづれは^は



て柳々こころしひきと死しく花はくれあひのりよりの
 けえん。おどろくしつとたかきすれは法念もせんれ智
 徳うしてかのもくうまと振舞ふ。又定てく心知も
 何れれが好も道よお念とむもめくろい。時よくも比で
 こく心歎しちひかりて身とくも。蟻蟻蚊此乃振
 舞。迷もわれあけいけいといかけまごして。法念天然の功
 速なり。依杖のよれ慈照の姿といふ。草木の舎宅
 こめて人と休衣裳よめてい人の膚とくも。又穀
 々の身の身命とぬもく水い人の垢穢不淨とあくひ
 火い極定いきと氣と暖さか。火と周と照偏と先
 作意身乃慈照なり。又鳥獸高聲しててもみ
 か。い書と愛と心事とくもに。あつとくへくも。何れ
 唯先中有り慈照とつげくか。心乃現なり。くも
 よ人よかりあへれども。なまこくも。暁月坊がそこ
 けかか。狂やとくも。人頭れよ。あくれをん。かか
 人ぞい。あく。べ。あ。り。なり。人のう。て。い。ち。く。も。い。つ
 と。ど。て。り。つ。身。れ。人。と。あ。く。べ。強。後。よ。い。ろ。ん。こ。い。飯
 ぞ。い。り。も。す。ら。り

人のうへ鏡よりけしていふ人乃

我身へうへまかふくもえん

才十二 我笑如鏡

ひく。一。系。室。所。は。尾。法。尉。た。り。と。い。ふ。ま。の。清。布。と

あらがひを成す心ばらへ寺は坊に衆徒集りて
ちかれし物終ふふとい世にりりやどりかねぬ
てもけしこしとゆわわらなる成すといひ
事当座世路といひいひいひいひいひいひ
世をこののぬらしきうぶらせんとてけし
勿祿ありこころのうらまされけし
くやうして死と心懸ちらうくうあよせかり
庵といふわらひいひいひいひいひいひ
ついでれと寺の坊のいけいあふそれいこわ
とていられいれいれいれいれいれいれ
てそのいれいれいれいれいれいれいれ

とて先師のませ茶のみいもらゆんぢり換て
洞。ちちと定治梅尾に極よなういれいれいれ
のちかかすこころかな成色どやいれいれいれ
てそのいれ枕と出く食なり一睡たりいれいれ
りかねいれいれいれいれいれいれいれいれ
これいれいれいれいれいれいれいれいれ
あつたかたはちやんちんとあつたらつらつら
いれいれいれいれいれいれいれいれいれ
あつたかたはちやんちんとあつたらつらつら
いれいれいれいれいれいれいれいれいれ
あつたかたはちやんちんとあつたらつらつら
いれいれいれいれいれいれいれいれいれ
あつたかたはちやんちんとあつたらつらつら
いれいれいれいれいれいれいれいれいれ
あつたかたはちやんちんとあつたらつらつら
いれいれいれいれいれいれいれいれいれ



町のありひりごととを分て坊の機好くちんを
小僧よこしとうせうととぐるものさせんほく
はくもふお布施と立てかりすまあくし糸ぬ
あまよまお社宿上の佛道これと極系といふ
なり。これよゆくお縁縁をめぐりわくもて
しん坊いん又きんかの作ら難科といふてつるそ
もすねていひとらしおん那の祥送うとと心行
ふ。はせの事い坊よまうせて。おづく規冊あか
りのり。只とい坊の物流や。すかこころけこ
そ肝要あかといふれあ。それらつとあをそて
よかともいふよまうしてこも後ち。あつたのちうが



八坊まにちそうあけり。あ年りりして坊を死せりそ
 ろら射たらし痛よおされ死けり。修治よ坊をぬり
 とかりひ、冥途よとりしじさうかことえてしれ
 此坊の逆さゆりし方ととめざらば。つらとと
 よみいばまゝしころれ取ひくまゝとらりり
 よづりけさいばよとらぬ坊やまゝり尾崎
 尉あつと。只今われへとりあね肉もあむわくは
 やくそくは。いそだ。海ちへ送つてあまひんびふよ
 ては。ち獄へあられし。うがりをねがむ。心下りり
 の。坊が。いのけさ。いれあひ。あく。らぐ。に。かりそ
 わ。りぞ。けり。く。あて。目と。ぬ。つ。う。て。も。あ。ね。ね。

小夜嵐巻才三

三

耐^たありしつひけさるるわらうのゆゑなりしと坊と
れてハせんかえり申す又まゝ二名と一の小浜といふ
ありし戸^と源^とゆゑの草^と細^と工^とあけける馬^の騎^かはひの
あやうゆゑうりかかとおく毛^の皮^はたそくつひりのま
は虎^の皮^は豹^の皮^は熊^の皮^はつこまかをあけても毛皮そ
のび多^くらうれあめ死^{して}比^比獄^獄うらりあ鬼
ごもれと八^八苦^苦堂^堂あわたりとてそのきこざれら
ゆてけしてゆゑその鬼^のたの願^願りてとれあう
く何^何虎^虎豹^豹の皮^の毛^毛をげふとてうたれあしてな
し凍^凍ゆれとてとてとてくもやうと事^事あるれ
がごとんとらちらして集^集皆^皆傳^傳へらんよとつる

あつと異^異こくやうとて小^小獨^獨云^云といひけるがど
よかおどしてきてあかあ男^男ちり申^申なれるさやうに
つひけるぞとてそのあつとさんいれがうらやこ
二^二でう押^押乃^乃小^小浜^浜じ戸^戸源^源ゆゑとてうたれあ毛^毛皮^皮は
つとては虎^虎豹^豹の皮^の毛^毛をげふとてうたれあ毛^毛皮^皮は
かこたあくさんよりらとと名^名をうたはさやうとい
よするやうに重^重宝^宝よかばつとせむとてゆゑ
毛^毛をげふゆゑにそとてうたれあ毛^毛皮^皮は
よかあつとよとせむゆゑにそとてうたれあ
と抱^抱系^系をげよとんとつとてうたれあ毛^毛皮^皮は
くいともきれと鬼^鬼たきて先^先道^道のこころな

本座へはまゝありゆきよ。おぢよはかりとてそれら実呼
りしをばあみ申してよめくもかおらうりりき
がらさゆづき。勿辨かきせめて一くげおまじし
り所腰夾乃十として十日入もいれまゝこめとてもへ
しこびんとくたぐもきりにくや。い鬼まきていめ
らばさるぬくよびのこくせとて毛皮たごりしよ
とくさ相様しけるまういぬとそれとせれおま
せだまき一のらくわいもわいんとしてとくし
しかお鬼うらりりそふ呼てあらくれやうとく
しくくりお様しをれと。一版もささいぐなりし
そご獲生させよとて。死むの山三速乃大川と

鬼ご入六鬼も車小のよお様よりそりして。八巻
雲まて送るゆらぐよりそ。お酒平親がふらり
いごかりあまいもてあけけり。お酒平親がふらり
おららるといれまはよふ。お酒平親がふらり
おかによまがくけり。お酒平親がふらり
十日入もいれねば。お酒平親がふらり
てわまきもはあらば。お酒平親がふらり
く毛皮乃てりし。お酒平親がふらり
まじごふ。お酒平親がふらり
お酒平親がふらり。お酒平親がふらり
皮の若魚殺し。お酒平親がふらり



の海物戸けるは皮敷成敷行ふ尸多れも地を死
めくすつらとゆへらうらとにゆり落尸さげひがふ
口入十段りらしてまじゆごてとせげひ。物敷のたき
糸の中に分なむゆへに皮の音面も地をえまけ
しをく。そのとを身ゆゆくはよとてさきさき
ゆらりゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら
くふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
てくこのふとふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
わあゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
かふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
あまゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

けりかてよ。大吾人となりしにかりそののらゆゆゆ
性生し。圖魔王御流りてこれハ人ぜんめんわら
そだ安樂園よとくれとて未だの冥官よあわせつけ
らゆ。冥友うけりゆりわらりともうひて送るゆが
ふ。唯今極むゆの性生人よもわきとてあへて
見ゆ。ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
まげ。かの虎豹の毛皮よりゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
かりさてもくゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
らわれきそのさきとあへてゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ひげゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

佛よか何ういふれがされがせしやと申すらうらうら
よおしじらうし事かやしお者といけらうら
と心科送りまわすれと申すは果成就したる
人か何ういふ今極楽地生ずしと云ふは
のり遠の空のわらわくとわらわらよおまごころ
もらたうらうらやがのまんまらうらと云ふ
佛といふはうらうらと云ふはうらうらと云ふは
あつらうらうらと云ふはうらうらと云ふは
心乃佛といふはうらうらと云ふはうらうらと云ふは
うらうらと云ふはうらうらと云ふはうらうらと云ふは
うらうらと云ふはうらうらと云ふはうらうらと云ふは
うらうらと云ふはうらうらと云ふはうらうらと云ふは
うらうらと云ふはうらうらと云ふはうらうらと云ふは

こゝにけしむらうらうらと云ふはうらうらと云ふは
うらうらと云ふはうらうらと云ふはうらうらと云ふは
うらうらと云ふはうらうらと云ふはうらうらと云ふは
うらうらと云ふはうらうらと云ふはうらうらと云ふは
うらうらと云ふはうらうらと云ふはうらうらと云ふは
うらうらと云ふはうらうらと云ふはうらうらと云ふは
うらうらと云ふはうらうらと云ふはうらうらと云ふは
うらうらと云ふはうらうらと云ふはうらうらと云ふは
うらうらと云ふはうらうらと云ふはうらうらと云ふは
うらうらと云ふはうらうらと云ふはうらうらと云ふは

才十三 佛と恵下女の事

天生須達長者のうらう一人の下女あるが下女は
とこころかぎり仏のいけとてれちやぞうら
ひく佛を成あらんよがばうらうらと云ふは
いもうらうらと云ふはうらうらと云ふは
廻るにちくちくうらうらと云ふはうらうらと云ふは



向はまゝ佛と云ふは現下も下は向は又下は向は
あふはあれいと面はあつたはまゝは向は中下現
く向はる。さうする下女と云ふはあつたは向はる。は
仏阿難と云ふは勅して向はる。は我は主縁のりのをわ
けりて教化と云ふは向はる。は向はる。は阿難けり
けりて向はる。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。
のどく如来の在世のさうする向はる。は向はる。は向はる。
色つらう。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。
老成の乃息女中お姫の聖茂天皇天皇十九年
下。是は誕生のり。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。
仏三味の床と云ふは向はる。は向はる。は向はる。は向はる。
と云ふは向はる。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。

と云ふは向はる。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。
浄土經と云ふは向はる。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。
て佛の所作と云ふは向はる。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。
亀六年し卯の年。大徳寺と云ふは向はる。は向はる。は向はる。は向はる。
南都西大寺と云ふは向はる。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。
ハ死する人の名と書付て廻向と云ふは向はる。は向はる。は向はる。は向はる。
か人れも成付たなり。と云ふは向はる。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。
況んは帳おはけりてと云ふは向はる。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。
と云ふは向はる。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。
泉式部と云ふは向はる。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。
侍らうと云ふは向はる。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。は向はる。

ひのちかたれぬのんはよふか

女たれどもつらと或人の聖人の乃らうて叶ふにけり
系十三仏道の因なるしとふかありつづつ或は
新羅の息女上東の流乃女房和泉守橋の乃らう
あつたふよふつていけと或人と号せしと女や
つまねるら清言に女とやうなれど人の目先その
方との付くは身ぬぬのこあや年とけつら乃
かゝりつもの若くは世の事とあつたは世
あつたかりひかふべきのあつたは世と
もや老とかりひかふべきのあつたは世と
あつたは世とかりひかふべきのあつたは世と

とこうとけつら乃の男男女女とつらと考へて
或は終く分る思惟してはつたは世とかりひか
とつたは世とかりひかふべきのあつたは世と
淨相若乃おま常相の三種も若相は右の八若
常相は朝夕眼業よる境界とつたは世とかりひ
お眼もつて世路は清とつたは世とかりひか
て却るは朽ぬしとつたは世とかりひか
えつたは世とかりひかふべきのあつたは世と
乃らうの不淨相はつたは世とかりひか
の皮はつたは世とかりひかふべきのあつたは世と

小友...

屎尿のさうがれたぬれとみしくくまげら
その身とまらむくさんぐらぬ茶の皮虫の糸
織物さうまきまきに染らぬ物とさう白粉の花
ぬくつらぬかよ眼と肉さう男女のさうやと
かんの屎穢の益執とさうぐらぬさうさうと飲よ
まらぬの不浄とけいじは袋

ソラへは内よふ人ぶらうの邦

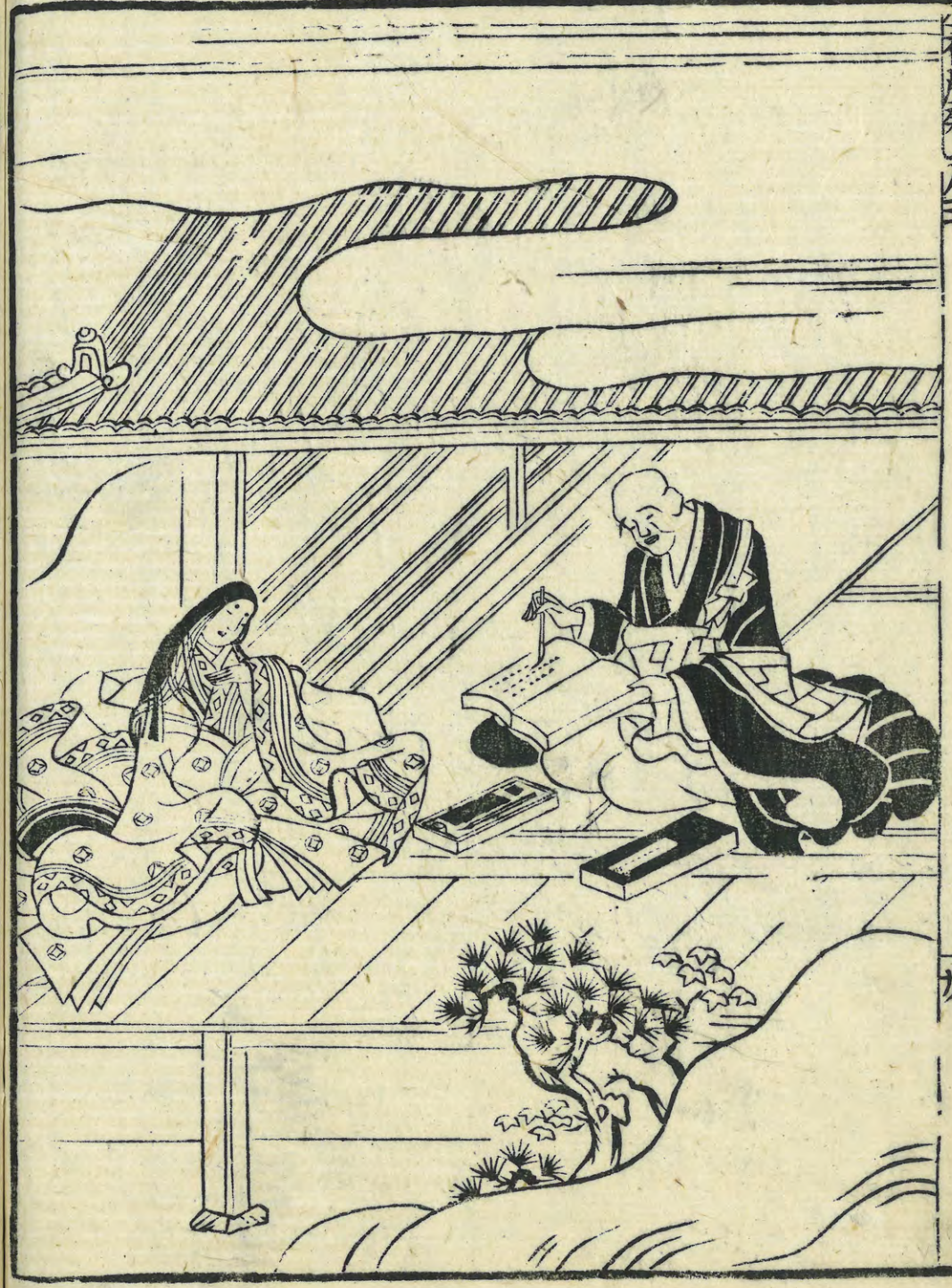
既に命はさうてのら桃梨のよもわのて塚乃道
の茶へららね道乃ともさうすさう一七日を
にだるにやささうさうさうさうさうさうさう
うらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
腫脹爛壞さうさうさうさうさうさうさうさう
鬼もさうさうさうさうさうさうさうさうさう
教よ神成とわい鼻とぬらぬて逃さう邪鬼の
香馬狼犬の顔さうさうさうさうさうさうさう
わいさうさうさうさうさうさうさうさうさう
八廣族の東坡居士が作く九相の詩さうさう
悪相よ吾所と九相く作ら或人のさうさう

かんにさうと人を送らてゆら野へ

わいさうさうさうさうさうさうさうさう

あうさうさうさうさうさうさうさうさうさう



なぞにはいかにうらみしに押寄屏風めくし
 倉ごころそい思覺の車そいおもひ
 とみしおもろくげぬらくもりやそいぶくも
 ちくものすくならぬ海まじやいんか
 ちぶこもそかまらんる二日ありた今生よわん
 うらへ人は移んざりそいし知人と人切よかひ
 よ忠とけし親よ孝とけし。兄弟まぬら申らふ
 よよづひぬい他人なりたまえと物くし
 うらまけしこん中のぬらうそいおもくか
 めひ三日たれぬちかどわさといこもえん
 のりなれびし。天竺よス人のまに菩提のる

かくうらみぬあわのされ四人のまと後七
 航るやそそのら。乃善安まよの五達
 世の中八樂ゆは行まう乃ぞいありやし
 へま。我ハ父母く孝にそい。親みわら
 乃うこまふあし。一人の國ましなりて
 知と孝し。四海と叔度し。乃付善安ま
 各くちやせし。何依まじ。樂よわらぶ
 しまづまの花とえかましらく。乃四
 雲帯あし。花らりて。柘末とならし。に
 てわらふ。又父母よ。流まを。生ま必滅の
 ばら。常のらく。乃。又。乃。樂

樂はつらばん花とさるべし妹持を秋の籠り。本八
葉の落びがごとく後よ一夜別をかり又四五
かりあり。本國のまじりぬ先ずハあり。これ
天下と治國家と安穩よふえんとかかり。反れば
りつとをわけてまげぬ。いふはよめくへ殺生と
かへあり。貴一人よ神と心道にたれはその飛
よろごるべし。只つらさハ國主をわくつらさ
又四人の王の白うて普安王ハ何もう樂とが
外へしてぞしつら。普安王のいもく我樂所ハ不生
不滅不苦不樂の世がま。実の樂なりとつら
四人の王ハ曰そんしとバかふうていふまやとつら

普安王のいもく仙取ハ御系何とあへてぬふ。時
さくばいさ普安王と先うて曰ノのころ。仙所
よ糸佛道とあへてみてつら。是仙取ハ性佛
て云と道と求便樂等と捨とよ姿あり。わ
し事とやふ然。水もあつる。思よもつら。い
善道乃友よよふとつら。い友のいせのなるこ
と成かりん。唐よ子期伯牙とつら。二人友を
何後琴の上もかり。伯牙山の曲と弾じふ。死
子期同氣とふ。事いふら。志流水
わり。又子期あり。曲と弾じふ。伯牙が。いそ。海
とふ。事流あり。のぶとつら。地と子期死

ほは身琴の徳とあつて長琴と薄びぬ智者
乃たへかんと愁とらん。そして智者といふに
いかに。世とらんよおや。今の私欲

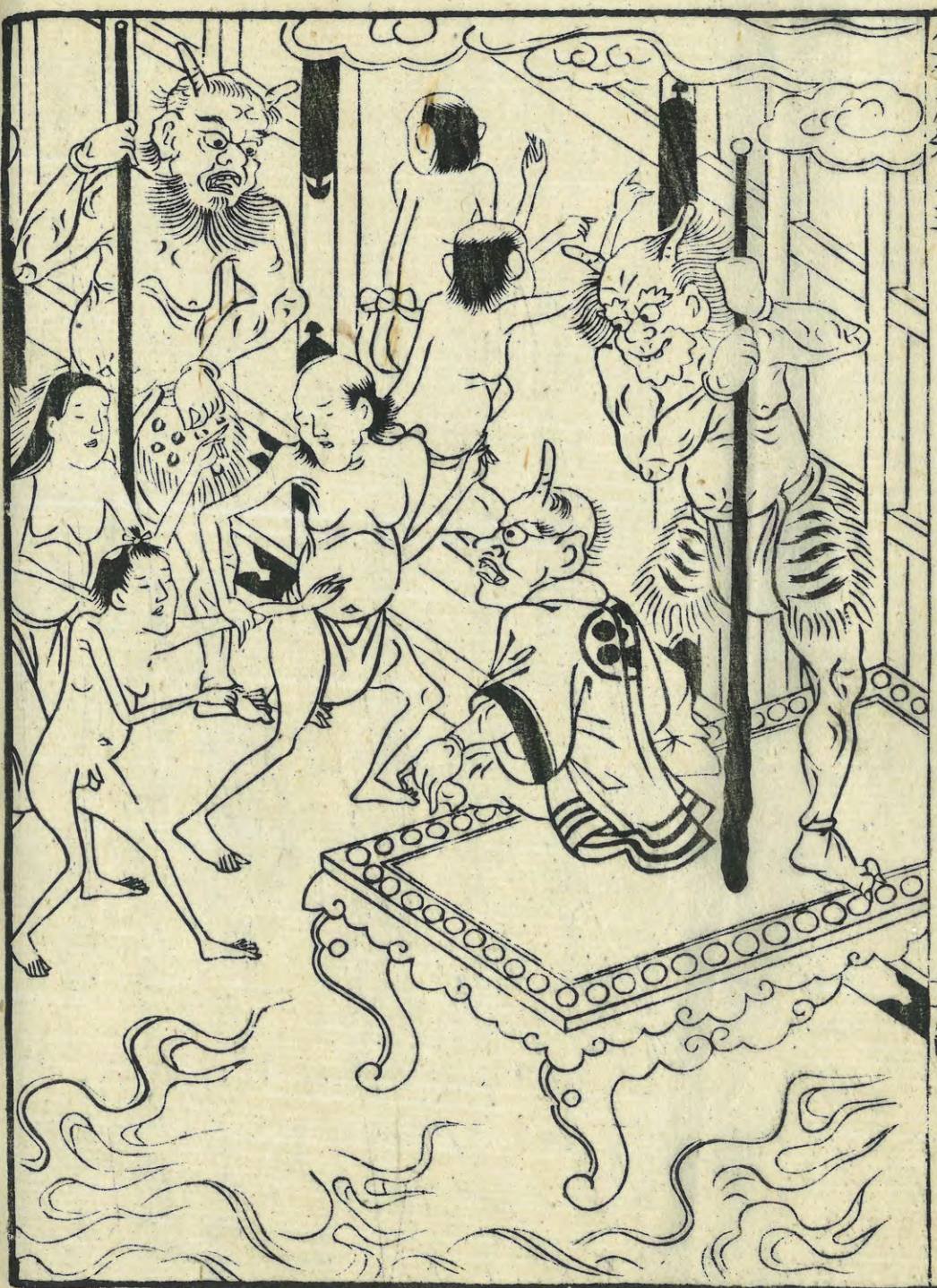
君なりとて非なりとせん悔の花

つらとてくそとてあつる人ぞし

才十四 獄中大教乃の觸

漸く日教とらりて。獄中とす。さきさきとらた上句
よかむとれど。大主勅使とつて。徳まらへ宣は
る。されけら。先月集舎。勅定乃とく。球ね透か
く。先んく支那の比獄く。遠近よりらん。をく
に。かしのとて。入大教の吾乃のすれ。させよ

ある。八日乃。お天とらぐ。の門戸。悉く。こ。罪人
と。こら。やとく。い。せよ。この勅使。た。は。さ。ら
う。け。ぬ。ら。り。の。百。戒。六。比。獄。の。冥。官。獄。卒。こ。し。は
か。う。と。物。も。こ。け。ら。や。と。罪。人。こ。く。う。け。ぬ
られ。と。下。け。ぬ。く。釋。迦。也。来。為。林。般。み。の。即。入
滅。今。年。二。千。八。百。年。忌。よ。相。南。り。そ。れ。よ。ま。つ。く
大。主。佛。恩。報。謝。の。め。明。八。日。乃。お。天。と。り。比。獄。の。門。に
ひ。く。く。わ。い。ど。飛。ん。と。く。く。内。り。ど。か。二。日。乃。是。迄
十。八。日。乃。わ。い。ど。い。わ。ふ。く。は。く。ら。と。な。ぐ。め。ん。お。れ
希。人。の。吾。根。か。れ。さ。あ。や。れ。遊。具。の。み。ま。御。免
か。こ。何。勅。定。こ。も。す。れ。あ。り。ける。罪。人。ぶ。く。う。け



とぬりの。是のゆゑなるけしやわりの。このまわるとま
 よあわぶ。比よふく。ほまりのうまうし。こけりたよ
 ぼりか。うりぞあ。又獄中とゆまうし。けし
 ち。比獄とわ。ゆ。罪人。こ。ま。う。の。ほ。ゆ。い。ひ。た
 足ゆら。こ。う。し。び。に。虎。あ。り。せ。く。罪人。か。ご。こ
 とも。む。ご。う。く。け。か。げ。愚。猫。ご。こ。ま。の。か。愚。も。わ
 義。よ。入。く。と。け。魚。龍。と。あ。ま。屋。も。と。か。又。罪人。あ。り
 わ。ご。空。成。雷。電。の。あ。つ。て。し。ど。終。こ。と。け。く。ら。い。屋
 損。じ。る。紙。け。く。ら。も。せ。ま。さ。う。け。あ。ま。い。け
 さ。せ。よ。鉄。棒。く。ま。で。ま。い。ぬ。や。こ。な。ま。の。ご。も。成。こ
 が。せ。よ。う。じ。き。の。音。と。ま。ん。び。び。せ。あ。せ。あ。通。具

う。あ。よ。入。く。と。け。魚。龍。と。あ。ま。屋。も。と。か。又。罪人。あ。り
 罪人。ご。こ。ま。の。よ。う。明。ら。な。ま。し。ら。ひ。て。一。束。と。子。束
 し。わ。し。俺。音。も。り。獄。つ。の。中。を。あ。り。や。し。と。し
 と。ま。い。の。罪。よ。と。し。つ。ま。う。し。て。む。つ。蜘蛛。の。や。う
 よ。か。も。と。て。居。し。あ。り。が。り。は。の。う。い。わ。な。何。の。の。ひ
 う。ら。ご。う。き。の。と。け。さ。も。り。ご。け。や。世。屋。つ。ま。い。ら。罪
 人の。杖。よ。と。う。ら。と。て。ま。う。く。け。く。老。い。ま。し。る。あ。ら
 や。う。も。ご。通。り。の。あ。ふ。あ。ら。う。れ。の。び。あ。ご。り。く。さ。れ
 か。何。の。の。と。ま。り。け。し。や。わ。の。あ。ま。い。し。ひ。ま。り。し
 い。か。何。世。の。信。跡。も。や。ま。や。な。あ。ま。い。う。ま。あ。ら
 ん。い。比。ご。に。と。ら。あ。い。ま。成。ら。さ。あ。の。く。あ。ん。と

とありしなり。出のしゑれり色づくかの心身のうへよ
かぞへんく。開花落葉とくまんどのひのまじりかへら
内信なきば長秋短季の旋改温をわすれは
しぬのまののしじく。やまありのてえんを命を
へいごうをさへうご。志万葉の祝季。祇儀釋教を
裂傷をさうぐりさひのうへま。三世相志三十二
字に合せて三十一字しち事ハ六日経の亦一品とこ
ざいつ。是とかりら。教字実相の理かりし六義入祈
しつふ事ハ六道六波羅密ハ大至身の義とほむ
六祈を入祈入音入荒入智多由の悟と長ひさして
ふし待と作あし。弘法法樂のしめよ。廻向一教釋

鬼道のつと和け。佛道と思惟世ハ成仏の因なるを
ありのつとら乃あまこは祈祈とやうんとお
らう男こしくく。やまありのしひまはがらうちま
てうまのつとあまざしてわがてつよまのつと
らうら飛入しつと去らう。せれさるるのつと
のうへよしとさしあめまね。わくくごこれ教を
ぬまのあふとつひすく色くゆへうす。まよふこと
縁どあま。人傷よかごう。花よかくうく。つとあ
よまめゆ。種まて秋とつじつよあま。つと人
とよまけ。べのかりまこのゆへあくま。つと祈
祈の箇くま。まこらぐのあぐま。つと。又ね祈ね



奇しう事ありと唐の賈島しやんしふ人の心
くじういけくれし物よ。めんくうて海嶠らるれ
んぐうて雲霧とつづいけられくまき。三
の向ふわなれど。一せれうらこれと餘念あり葉
として次年の名月よまこ向て。と背一輪満清光行
処みちち。ハとび白とまうけられく。高樓よ堂
時あぬ鐘撞かふりのあれど。之は物と答ひ
んまこ或時鳥の宿に池中の樹傍。敲月下の印
けられま。傍に推しせんや敲とせんや。思惟
こごめりてして道行わく。て海の中。推し敲の
心業と。まよき。いさぐして。形斗とら。多のく。推て

んや。れて又ね人のどく。まよれけるが。あり物
四王権戯のあけ。幸志あふ。常乃人と拂友人彼
こ。く。ら。く。く。ん。い。ま。な。れ。た。王。の。け。な。り。な。ら。ん。
友。人。う。ら。う。う。ん。と。と。何。と。ま。ま。ん。ん。わ。わ。
の。の。の。推。め。く。れ。あ。と。心。よ。い。も。く。ね。人。ん。と。
志。心。と。御。車。の。う。ら。う。ら。も。韓。退。之。の。御。後。ま。て。い。ら
な。ゆ。も。も。あ。さ。せ。い。あ。ふ。が。ご。ん。の。ど。く。物。よ。ね。れ
り。か。一。つ。よ。た。れ。う。ん。と。い。く。き。い。物。人。あ。の。い。ん。感
斜。あ。く。ひ。た。つ。く。は。り。の。か。雅。も。ひ。く。せ。ち。の。人。こ。こ
む。た。れ。く。あ。ら。う。た。と。御。同。車。に。の。せ。な。ま。い。王。文
還。沖。の。く。せ。れ。ら。り。賈。島。の。人。あ。い。く。ハ。御。作

絶望のくさうの事と特種とふびあうらるるに
 地獄出のうもしくこのあまわよづらにたまきとささ
 いこかかしくつひ捨つて狂方たれハ餘人乃まきく
 つてせめあうらしれし二人の中竹のくき
 2 かわよまきまきくはつはこんぞのきんまき
 〇 いこくあうら

わあういひ地獄乃登入ゆこと

かくそくらのよあまらとと和

とつ、すれちうぞまてうら英田よふあうららふ
 魚 ありねんぬれあうらにわわのこら蔵まき
 1 二系乃會所酒富のむ舞まき

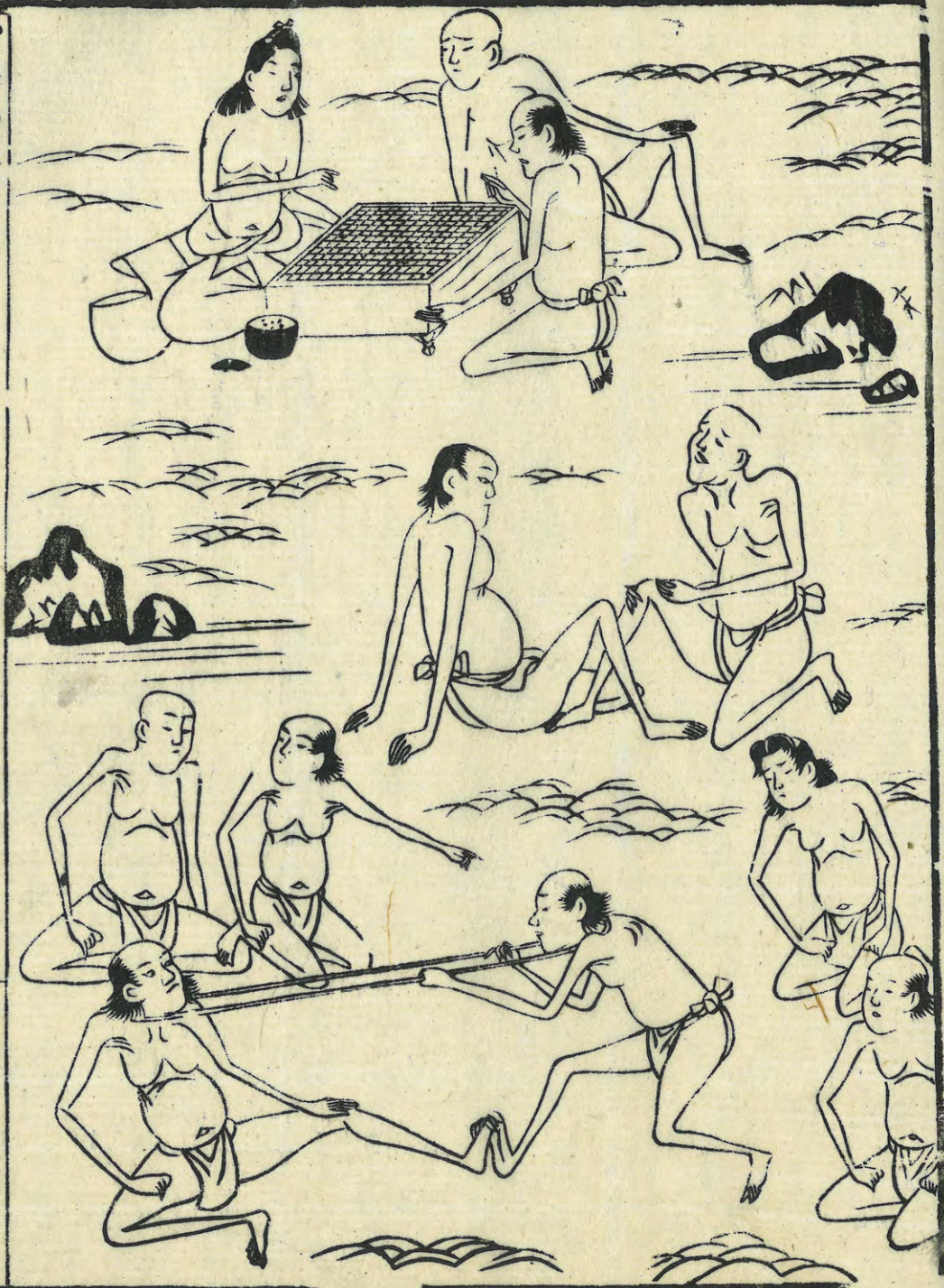
のみすたりり一方あらまぐりそんしそさ
 やいすれい私秩乃らとらようけどりくあり
 ろそさう一むぐ両の口ははきくよハ救用
 うまきりりしむかかりうらこしなららけ
 一ゆうりそんしむきまはあそねぞあうら
 の返秩たれも幸あハゆまき
 ほうらうむりらうある地獄釜
 〇 足あさくそくらのよハ

才十八 罪人地獄出

既よすあしつむこの多き後のもよあはしめ
 き鬼さあまことと出二百六地獄の門く悉く開く

罪人比獄とかくれと。筑乃中へ鳥の雲井よわきの
網奥の大海よさるれて水とてほぐさくとのこが
勇のまなれいぶよわそびわよか花よぬさるる月
よさめ。徳とてこひ舞とまひ。連歌くいらは連句
素将素双六あんどほろり魂鬼に枕貴らべり。
ろり。このとわわめさかこころ。庭よまらわ
物ごわり。実の道きてわろざれらうれあてまげさ
異作の枝もあがり。残虫の太刀ら合し更切
けく株さしてまこ。道つらひ。れらこらう。最合殺的
ふ楊子笠掛丸物大蛇おのまのひとまは。懸る
永さ日らると長采とてまこ。こころ。晴波つらふら

海は津波のあがれよ。まの氷と剪る。海はあわ
糸とてさ。波とて心。岸根く柳よこ。心。糸とけり。
海とよわそが。徳人と。後乃杉糸らぬらこ。ぬ
まこと。塩るぬの。様。網つか。海人乃。さ。糸のい。海
ゆ。くれぬ。ひらふ。源乃。ま。貝。網と。う。け。ゆ。ゆ。け
流。こ。心。よ。わ。ま。い。か。人。ら。ま。こ。ま。こ。岩。は。岩。巖。と。ら。神。く。
松のま。月と。ら。ま。こ。て。星。さ。乃。小。若。浅。芝。生。と。こ。も
ふ。こ。ひ。さ。く。ち。う。あ。る。乃。ま。ま。く。草。乃。ま。の。ひ。か。あ。ゆ。何。そ
ゆ。と。い。う。つ。ど。い。ま。ま。ま。と。ま。ま。と。う。す。へ。ま。な。い。ら。ん。若。か
遊。ま。る。乃。こ。と。と。ま。ら。ゆ。ら。笛。尺。八。あ。く。凡。い。う。か。ま。や
あ。そ。び。相。撲。ま。合。碓。う。ら。花。こ。が。も。も。こ。み。み。ぐ。ら。か



わびさへわびさへいふはさかたなりけりくわらわきび
公家上臈乃のりもわのくはうしんけちかにさむら
じくといふさかたのけはさかたわきくわらわき
うらおれさくもあはれきん方宗伊勢おれげん
と。更長をまげししんきくわらわき
わがふ事もあはれ。僅よのこふまのまきさかため
まののりあはれ。句さうりやとぐれや。厚に凡性
まののりあはれ。ゆきまのまきさかため
よひさうさくもあはれ。くわらわき
ら。さくもあはれ。まののりあはれ。くわらわき
わがふ事もあはれ。僅よのこふまのまきさかため

とりくのよひついでいふまのまきさかため
よめさくもあはれ。くわらわき
くわらわき。くわらわき。くわらわき
あはれ。くわらわき。くわらわき
薦さくもあはれ。くわらわき
既の花さくもあはれ。くわらわき
舞うた目さくもあはれ。くわらわき
とまじ年月といふさかたのけはさかたわき
大教さくもあはれ。くわらわき
ひとへは仏のひげあり。大玉の御慈悲ゆくと。貴
ととりくわらわき。くわらわき

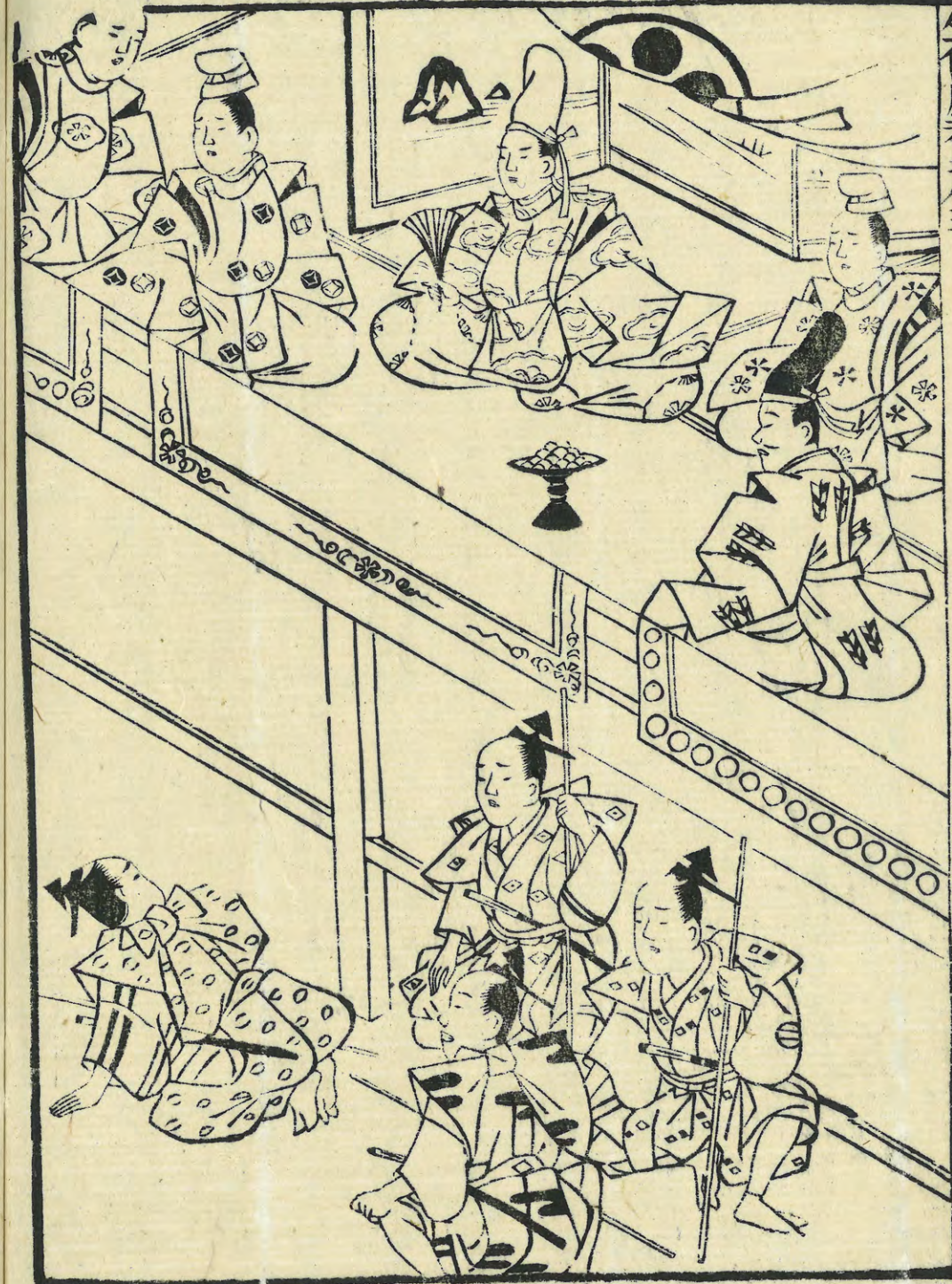
長へ日のかたがたぞ。な成かづれし。あつまる。目色く
 ちど。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 だ。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 け。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 たり。筒て。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 と。うら。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。

双六のこいれ川糸のむら石

あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。

け。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 こ。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 お。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。

こ。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 け。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 ろ。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 か。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 と。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 の。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 ふ。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 し。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 家。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 し。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。
 と。いふ事か。ふあ。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。あつまる。



かゝるうらなひのうらなひとてあやうらうらなひの
かそれとてさういふのうらなひのうらなひのうらなひ
獄門ごくもんらうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
ようらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
ひととてうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
例れいのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
ぶらうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
けらうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
さうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
ものうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
これらうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

さういふうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
よらうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
それらうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
あつらうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
独ひとりのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
いばうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

うらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

さういふうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
かひかたは今のうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
くさうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ
さういふうらなひのうらなひのうらなひのうらなひのうらなひ

安婆めくくつう何人のさびくま

その残りけ世のなごひあり

それぐも若らさうた國なまありてわん人衆あて
すれ山の流と庭ようは葉山よ若とあまうらひ
本とうあどしてがうくことうた他いこい海へ来
るもぞれたら乃石とさ十人ぞらあくか河ひ
ゆがふおまぬ方れ人とうくへうぶのを梅とらせ
け方の梅とそれぐ一人してもてふかりふ処
やうへおむのぬまらうびのつと後をり四元
ときくはまば葉山家老山のぬりく何京の里徳元
な海入道澤寛とらまのあまありとぞ 卷三終

かのぶとふるうらわらばおまんつるうら